

## 月惑星用GISデータベースの試作

## The prototype of lunar GIS database

# 雪下 晃 [1]; 出村 裕英 [1]; 浅田 智朗 [2]

# Akira Yukishita[1]; Hirohide Demura[1]; Noriaki Asada[2]

[1] 会津大学; [2] 会津大

[1] Univ. of Aizu; [2] Univ. of Aizu

惑星用の地理情報システム (GIS) は急速に普及しつつあるが、地球用と惑星用とは異なる点がある。地理座標系の定義やスケールに違いがあって、地球用のツールやライブラリをそのまま使うことはできない。機能面では、解像度が異なる複数の観測機器からのマッピングデータを画像演算すること、一度に異なるデータタイプのマップを同時に可視化するというリモートセンシングデータ解析と密接な要求もある。

日本は2007年度に月周回衛星セレーネを打ち上げ20テラバイトを超える月面マッピングデータを得る予定である。それを見据えて、これら大容量成果のデータマイニング、ならびにそのGUI検索技術要素の開発を進めている。

現在、ESRI社のArcGISのいくつかのソフトを使用して地理情報システムデータベースを立ち上げている。そのソフトとはArcSDE、ArcInfo、ArcIMSの3点である。データサーバと配信用サーバにこれら3点を走らせ、座標系の変換を行いWeb上で配信可能なGISデータベースの開発を行っている。さらにJavaアプレットによりGUI検索技術要素の開発を行う予定である。

本学会では現在会津大学で稼働中のGISデータベースのデモを行う予定である。